

宗教センターたより

シリーズ 地の塩、世の光 file 23

◎ 世界各地で活躍するクリスチャン



## まだ開かれていないプレゼント

**4:20-21** John 1  
ヨハネの手紙一 4章20～21節

「神を愛している」と言いながら、兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見る兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません、神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです。これが、神から受けた掟です。

Nathan FLOYD サントリー-Chief of Staff, 社長補佐

すべての人は、言うてみれば、「未開封のプレゼント」です。人生でよく経験することですが、神さまは、そのようなプレゼントをもって、私たを驚かせ、喜ばせて下さいます。しかし、ときどき、そのプレゼントで喜べない時もあります。開けてみると、とんでもない中味だと感じてしまい、喜べなくなるのです。付き合いくい人たちがプレゼントされるときが、そうです。

それでも、まだ開かれていないこの贈り物の中に、私たちは兄弟姉妹を見出します。神さまは私たちを兄弟姉妹として創って下さったのです。私たちは家族なのです。愛の帯で結ばれる家族ということです。

私は今まで、たくさんの異なる企業で、たくさんの違った人々と働いてきました。一緒に働くことが喜びになるような人たちがいました。とても付き合いいやすい人たちでした。でも、中には、付き合いくい人たちもいました。一緒に働くのが嫌になるような人たちもいました。

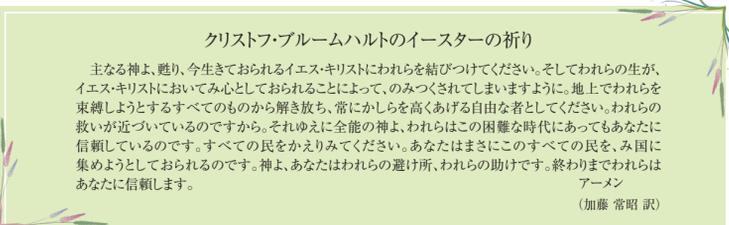
しかし、神さまは私たちすべてに同じような約束と祝福を与えて下さっています。皆が共に愛し合って人間と

して幸せに生活することができるようになる、という約束を与えて下さったのです。

神さまが私たちに人のプレゼントをして下さるとき、最初に私たちの目にとまるのは、じつはまだ開封されていない贈り物の包装紙の一部分にすぎません。人柄や、変な癖や、色々な違いは、まだ包み紙の一部分でしかないのです。そうではなく、その包み紙をほどいて、本当の中味を取り出したとき、つまり、その人の内面に触れたとき、はじめて私たちは本当の「贈り物」を見つけることができます。私たちはその「贈り物」を「神の家族」の一員としてのその人に見出すことができます。私たちは兄弟姉妹なのです。

この真実がわかると、私たちはすべての人を心から深く愛することができるようになります。そのとき、私たちは自分の偏った見方から自由になることができます。そして、文字どおり、自由に、自分の仲間や同僚をつくることができ、そして、自分の願いに沿って、人生をつくりあげていくことができるようになるのです。

The Salt of the Earth, The Light of the World



### クリスト・ブルームハルトのイースターの祈り

主なる神よ、甦り、今生きておられるイエス・キリストにわれらを結びつけてください。そしてわれらの生が、イエス・キリストにおいてみ心としておられることよ、のみつぐされてしまいますように。地上でわれらを束縛しようとするすべてのものから解放し、常にかしら高くあげる自由な者としてください。われらの救いが近づいているのですから。それゆえに全能の神よ、われらはこの困難な時代にあってもあなたに信頼しているのです。すべての民をかえりみてください。あなたはまさにこのすべての民を、み国に集めようとしておられるのです。神よ、あなたはわれらの避け所、われらの助けです。終わりにわたれらはあなたに信頼します。

アーメン  
(加藤 常昭 訳)

シリーズ・私の教会 file 72

United Church of Christ in Japan Takingawa Church

## 日本基督教団 滝野川教会

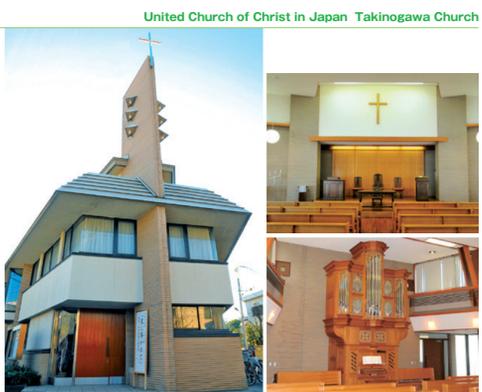
大串 久美子  
初等部教諭

滝野川教会は、米国のディサイプルス・オブ・クライストと呼ばれる教派の宣教師たちの働きと支援によって建てられました。

米国ディサイプルス教会の外国伝道協会宣教師ハーヴェイ・H・ガイ博士が、東京・駒込に聖学院神学校(学校法人聖学院の前身)を設立したのは、1903年のことです。翌年その構内に、滝野川教会が誕生しました。その後教会は、すぐ近くに場所を移し、今もなお、上中里の丘で、途切れることなく礼拝を守り続けています。駒込駅から聖学院、女子聖学院沿いに伸びる道は「聖学院通り」と呼ばれ、その通り沿いの一角には、滝野川教会発祥の地の記念碑が建てられています。

滝野川教会の礼拝の大きな特徴は、毎週礼拝の中で聖餐式が行われていることです。聖餐式では、牧師先生が「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう」(マタイ11:28 口語訳)とおっしゃいます。この言葉を聞くと、イエス・キリストの聖餐の恵みにあずかることができる喜びを、改めて感じてすることができます。そして礼拝の中で、自分が新たに創り変えられ、祝福され、送り出されていきます。これが滝野川教会で毎週守られている礼拝です。

〒114-0016 東京都北区上中里1丁目1-12  
TEL 03-3910-1997 FAX 03-3910-1989  
JR山手線駒込駅、またはJR京浜東北線・上中里駅から徒歩12分  
東京外環道北線西ヶ原駅から徒歩13分  
ホームページ <http://www2.odn.ne.jp/takingawa/>



滝野川教会は歴史的に聖学院との深い関係があります。そのため毎週日曜日の朝9時から行われる教会学校の礼拝には、たくさんの子どもたちが出席します。聖学院や女子聖学院に通う子もいれば、他のキリスト教主義の学校に通っている子もいます。また、地元の公立校に通う子や、わざわざ遠方から通ってくる教員のお子さんもいて、本当ににぎやかです。私自身、この教会学校に通って育ちましたが、学校以外の友達に毎週会えることがとても楽しみだったことを覚えています。教会学校は、幼稚園から小学校6年生までの子どもたち(幼小科)と、中学生から高校生までの生徒たち(上級科)に分かれて礼拝を守っています。また礼拝後の分級では、学年ごとに分かれて聖書の学びや工作、ゲームなどを行って楽しく過ごしています。

す。1年の中で特に大きな行事はクリスマスページェントです。総出演者数は50名を超えます。最後に全員で賛美する「すばらしいホーリーナイト」を聴くと、クリスマスの喜びと教会学校の温かさを心から感じます。

小さな子どもたちから信仰の先達たちまで、幅広い世代に囲まれて過ごす滝野川教会での教会生活は、「身近なお手本」に溢れ、私自身の信仰だけでなく生活も豊かにしてくれています。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



海外キリスト教事情

## カトリックの国イタリア 一花の都フィレンツェの教会

橋本 清一  
大学経済学部教授



Santa Maria del Fiore

カトリック教会の総本山、ヴァチカン市国の荘厳なサン・ピエトロ大聖堂に象徴されるように、イタリアは圧倒的なでカトリックの国である。そしてイタリアの各都市を訪れると、そこには必ずその町を象徴する人目を引く大きな教会が建っている。例えば、ミラノには135本の尖塔を持つ壮大なゴシック様式の大聖堂ドゥオーモが、ヴェネツィアには金色のモザイクで輝く目も眩なロマネスク・ビザンチン建築のサンマルコ寺院が、各広場に座を占めている。これらの余りにも有名な教会は夏の観光シーズンになると大勢の観光客が押し寄せ、入り口付近に長蛇の列が出来ることも珍しくない。教会の中に入ると、キリスト磔刑像、聖母マリア像、ピエタ、守護聖人像、クリブト等がある他、聖書のエピソードを描いた数多くの美しい絵画が見られ、神聖な礼拝の場であることを忘れて、美術館に招き入れられたような錯覚に陥ることもしばしばである。しかし、聖日のミサは世俗の喧騒を排して荘厳且つ崇高に執り行われるに違いない。

輝けるルネサンス発祥の地フィレンツェに半年ばかり滞在したことがある。フィレンツェは世界的に有名なウフィツィ美術館を擁し、屋根のない美術館と称されるほど美しい街であるが、この都市に一層美を添えているのはドゥオーモと呼ばれる花の聖母大聖堂(Santa Maria del Fiore)を始めとする大小30余りの教会群であるだろう。ドゥオーモでは復活祭と新年のミサに与る偉傑を得た。待降節になると、人々は目抜き通りをイルミネーションで飾ってクリスマスを迎える。イタリアの教会は、曜日や時

間帯によって違うものの、観光客や一般市民に比較的自由に門戸を開放しているのも、筆者もキリスト教美術鑑賞を兼ねて教会や修道院に足繁く通ったものである。就中、画僧フランジェリコの『受胎告知』で有名なサンマルコ修道院とマザッチョの美しいフレスコ画で飾られたサンタ・マリア・デル・カルミネ教会のプランカッチ礼拝堂を訪れた日のことは、今もって忘れがたい。両教会の素晴らしさは日当たりのよい静謐な美しい回廊を持ち、祈りと信仰の場に相応しい厳かな宗教的雰囲気の中にキリスト教絵画の美しさが完璧に融合していることであろう。イタリアの教会を訪れる時、必然的にキリスト教絵画を通して聖書の世界を再認識することになるのである。

## 幼稚園より

卒園礼拝(年長児)

3/7 月

終業礼拝

3/14 月

卒園式

3/15 火

入園式

4/11 月

母の日礼拝

5/13 金

(教諭 迫田 敏幸)

## 初等部より

卒業礼拝(6年生のみ)

3/9 水

初等部米山記念礼拝堂

説教 小澤 淳一(初等部宗教主任)

6年生を送る礼拝

3/14 月

初等部米山記念礼拝堂

奨励 古川 武治(初等部教諭)

イースター礼拝

4/12 火

初等部米山記念礼拝堂

お母さんへの感謝の集い

5/11 水

青山学院講堂

## 中等部より

卒業礼拝

3/14 月

講師 西田 恵一郎(中等部宗教主任)

CF(クリスチャンフェロシッパ)活動

4/7 木

校内清掃奉仕活動

春の教職員修養会

4/8 金

13:30~15:00

講師 松本 利勝(中等部聖書科教諭)

新入生オリエンテーションキャンプ

4/13 水

4/15 金

イースター礼拝

4/26 火

9:20~10:30

青山学院講堂

母の日・家族への感謝の日礼拝

5/10 火

10:20~12:00

青山学院講堂

(宗教主任 西田 恵一郎)



表紙写真  
幼稚園のイースター・エッグ  
― 復活の喜びに充ちて ―

地の塩、世の光 THE SALT OF THE EARTH, THE LIGHT OF THE WORLD/MATT.5.13-14

# WESLEY HALL NEWS

120TH EDITION

MARCH 1, 2016

「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ」  
創世記 1:28

CHRISTIAN BOOKS & CDs

シリーズ・キリスト教関連メディア紹介

遠藤周作

## 『私にとって神とは』

光文社文庫

山田 徹

高等部教諭



父方がプロテスタント、母方がカトリックという家庭のもとに生まれた私は、両親の話し合いの結果、生後すぐにカトリックの洗礼を授けられました。高校1年生までは、教会の礼拝にはたまに出席する程度でした。何がきっかけであったかは定かではありませんが、高校2年生のある時期から真面目に礼拝に出席するようになりました。大学生になってからは教会学校のリーダーとして小学生に聖書の話をしたり、教会の役員を務めたりとすっかり教会活動にのめり込み、1日のほとんどもを教会で過ごすようになりました。

しかし、ある時期から教会に通うことが苦痛でしかなくなってしまったのです。「クリスチャンとして自分はこのようにあらねばならぬ」という思いが強くなりすぎ、それが自らを縛り上げてしまったためです。私の信仰生活はすっかり息苦しいものとなり、そこに喜びや希望は一切ありませんでした。こんなに辛く苦しいことはありません。

そんなに辛く苦しいのだったら

教会に行かなくてもいいのではないかと思われる方もおられると思います。しかし「教会に行かない自分はクリスチャンとして失格だ。どんなに辛くても無理してでも行かなければならない」という義務感のみに駆られて無理やり自らを奮い立たせて教会に行っていたというのが実状でした。そんな中で私はすっかり信仰生活に疲れ果ててしまいました。私がクリスチャンでなければこのような苦しみを味わわずに済んだのにと、洗礼の恵みを頂いたことさえ恨みました。

そんなときに出会ったのがこの本です。「無理をしなさい、きばらない」信仰をこの本を通して教わった私は今までががんばりがめに縛られていた鎖からようやく解放された思いでした。信仰生活で道に迷っていたとき、暗闇の中をさまよっていたとき、神様は遠藤周作という作家を通して私に働いて下さいました。神様はどこまでも愛と慈しみに満ちあふ

れた方であり、私の苦しみをしっかりと受け止めて下さっていたということから感じ、私は涙が止まりませんでした。スペインのキリスト作家ベルナノスの言葉に「信仰というのは90%の疑いと10%の希望だ」というものがあります。この瞬間に私の中で10%の希望が90%の疑いを超えたのです。「無理をしなさい、きばらない」信仰でもよいのだ、たとえ転んでも神様の懐の中に抱かれていたのだと思えたときの喜びと安堵感は、これ以降の私の信仰生活を支えていく上で大切な基盤になりました。信仰生活で道に迷っていたとき、暗闇の中をさまよっていたとき、神様は遠藤周作という作家を通して私に働いて下さいました。神様はどこまでも愛と慈しみに満ちた1冊です。

編集後記

いま、この国では、われわれとりびりが大切にしているもの、大切にできたものが続々と振りくずれ、無きものにされようとしている。対してこのニュースは、毎月、決して揺りくずれぬわたしたちの領域がいかに確かなものであるか、示し続けるのである。ここに代表されたそれぞれの思いや決意とともに、私たらはふたたび、新しい季節を文字通り新しいものとして創り、迎える。この号を未来を語り固める、よすがとされるい。

Wesley Hall News 第120号

2016年3月1日発行

発行 青山学院宗教センター 学際宗教部長 シュー・ユール  
東京都渋谷区渋谷4-4-25  
TEL 03-3409-6537(ダイヤルイン)  
(URL) <http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html>  
(E-mail) [agcc@aoyamagakuin.jp](mailto:agcc@aoyamagakuin.jp)  
編集 青山学院ホールニュース編集委員会  
印刷 株式会社 万社社

## パイプオルガンと共に

堀井 美和子  
パイプオルガニスト



パイプオルガン…それは一般的に決して身近な楽器ではありません。でもどこか懐かしいような、あるいは憧れのような思いを抱く方は多いのではないのでしょうか。青山学院には初等部ごす滝野川教会では、パイプオルガンがあり、日々の礼拝で奏でられています。ですから生徒・学生達にとっては身近な楽器である筈なのですが、本当のところはよくわからない、謎の多い存在かもしれません。どんな構造になっているのか、どこから音が出ているのか、あのたくさんのパイプは単なる飾りなのか!? そして、どうやって演奏するのか…等々、疑問は尽きないでしょう。

大学には、それらの疑問に答えるような講座があります。2003年から始められた「オルガニスト養成講座」です。これは「キリスト教音楽への理解・関心を高めると共に、オルガン演奏技法の向上を通して、教会における音楽奉仕者を育成すること」を目的とし、30分の個人レッスンを年間15回受け

られる、というものです。講師は大学オルガニスト(全員クリスチャンで、教会オルガニストでもある)が担当しています。レッスンで使用するオルガンは、青山キャンパスはガウチャー記念礼拝堂のスイス、マティス社製(ストップ数短大1、大学2、本部1)のパイプオルガンがあり、日々の礼拝で奏でられています。ですから生徒・学生達にとっては身近な楽器である筈なのですが、本当のところはよくわからない、謎の多い存在かもしれません。どんな構造になっているのか、どこから音が出ているのか、あのたくさんのパイプは単なる飾りなのか!? そして、どうやって演奏するのか…等々、疑問は尽きないでしょう。

大学には、それらの疑問に答えるような講座があります。2003年から始められた「オルガニスト養成講座」です。これは「キリスト教音楽への理解・関心を高めると共に、オルガン演奏技法の向上を通して、教会における音楽奉仕者を育成すること」を目的とし、30分の個人レッスンを年間15回受け



# 説教 神が下さる真の希望

ヨハネによる福音書 第20章1〜23節

**序**  
私たちは皆、希望を必要としています。「これから今よりもよくなっていく。大丈夫。」そう言ってもらいたいし、そう思いたいのです。希望がなかったら前に進むことはできません。

しかし事実の無視や思い込み、希望的観測は真の希望ではありません。試験勉強をしないのにどうにか合格すると思うこと、クレジットカードの請求書を開かないこと、いつかは死ぬとわかっているのに考えないようにすること。それは真の希望ではありません。

実は、真の希望はあなたの内側にはありません。

どんな状況の中でも決して失われることのない真の希望は、ただ神の内にあります。

イースター(復活祭)のメッセージ。それはあなたが今のような状況の中にも、神からの真の希望があるということです。

## 真の希望は神の犠牲を通して来た

二人の人の間で争いが起こった時、「あの人が悪いんだから、あの人が謝りに来るべきだ」と考えます。しかし神は異なる道を選ばれました。

人が神に背を向け罪を犯しました。悪いのは私たちです。しかし神は、希望なく暗闇の中にいる私たちをそのままにされず、ご自分の方から歩み寄られ、苦しみを担ってくださり、救い主イエス・キリストを送られたのです。それがクリスマスの出来事です。

人びとは、都合の良い時には「イエス様!」と寄ってきましたが、都合が悪くなると「あんな奴は殺せ!」と叫び、最後は十字架にかけて殺しました。キリストは私たちの罪を背負って死なれました。そのキリストを父なる神が復活させられた、それがイースターの出来事です。十字架には、私たちの罪の深さと、それを覆い尽くす神の愛の広さ、長さ、高さ、深さが現れているのです。

あの十字架の意味について歴史上は様々な解釈がなされてきました。しかしはっきりと言えることは、私たちはできない何かをキリストはあの十字架の犠牲を通してなしてくださったのです。

## 真の希望は涙と恐れの中であなたに会う

愛する人が亡くなった時、私たちは泣きます。悲しくて悲しくて、大声をあげて激しく、あるいは静かに声を抑えて泣きます。人前では気丈に振る舞っても、泣きます。なぜか? もう会えないからです。一緒に過ごした時を思い、楽しかった時を思い、親切にしてくれたことを思い、泣くのです。もう会えないから。もうお別れだから。

私たちは愛する人と永遠と一緒にいたいと思います。永遠への思いがあるのです。あなたは、神と、また愛する人と共に永遠を過ごすように造られているのです。

真の希望は、人間の強さからも、賢さからも、努力からも得られません。私たちは、人間の弱さ、愚かさ、限界を認めなければなりません。そして、にもかかわらず自分が傲慢であることも認めなければなりません。71年前に終わった戦争を通して、また5年前の大震災を通して私たちはこのことを

痛感しました。自分の小ささと弱さ愚かさに絶望する時、初めてそこにある神の確固とした恵みの希望を見出すことができるようになるのです。復活のイエスに最初に会ったのはマグダラのマリアでした。彼女はキリストに会う前、7つの悪霊に憑かれていたと聖書は記します。自分の力ではどうにもならない破壊的な力を知っていました。更に彼女は、十字架によってイエスは殺され、もう全てが終わりだめになったと失望の極みにいました。彼女はそのただ中で、復活されたイエス・キリストに出会うのです。

もしあなたがまだ自分でどうにかできると思っているなら、あなたは自分の力で押し切ろうとするでしょう。そして神のもとに來ないでしょう。

しかしあなたが、自分の限界と弱さを認め、神のもとに來るなら、神からの慰めと真の希望を受け取ることができるのです。

## 真の希望は平安となすべきわざをあなたに与える

復活したキリストから弟子たちへの最初の言葉。それは平和(エイレーネー)となすべき務めの言葉でした。あなたが神のもとに來る時、神からの平安と、あなたを最も活かすかたちで人びとに仕えていく務めを受け取るでしょう。そしてその

時、もはや小さな自分のためだけの人生ではなく、神と人を愛し、仕え、最も深き充足を受け取るサーバントリーダーとしての生き方へと変えられていくでしょう。

私たちは皆、自分の愛する人との死別を経験していきます。そして一人自分の死を経験していきます。今から100年後、私たちは皆、地上での生涯を終えています。あなたはその準備ができていますか?

聖書が語る真の希望。それは「いいお話」という程度のもではありません。頑張れば、まじめにやっつければどうにかなる、という程度のものでもありません。それは、もしあなたが今日、死に直面するとしても、持つことのできる希望。そしてあなたが明日生きていく中で、あなたを導く希望。何を待っても、失っても決して揺らぐことのない希望。そして最も困難な状況の中でも、とんでもない状況の中でも変わることはない希望です。

それは、神が永遠に私たちと共にいて下さり、もう前に進めないような痛みの中でも、その痛みを担ってくださり、神に信頼する者すべてによきものを与えて下さるという希望です。それをあなたは受け取ることができるのです。もし神のもとに來るなら。

## 高等部より

卒業礼拝 3/8 火 高等部PS講堂  
説教 堀谷 直也(大学宗教主任)

イースター礼拝 4/12 火 高等部PS講堂  
説教 山畑 謙(小倉井線町教会牧師)

(宗教主任 相良 昌彦)

## 女子短大より

卒業礼拝 13:30~14:30  
3/22 火 青山学院講堂  
説教 吉岡 康子(女子短期大学宗教主任)

宗教活動委員会  
オリエンテーションキャンプ  
3/28 月, 29 火 伊豆天城山荘

始業礼拝 10:00~11:00  
4/4 月 青山学院講堂  
説教 吉岡 康子(女子短期大学宗教主任)

チャペル・ウィーク  
5/9 月, 11 水, 13 金 12:35~13:20  
ペンテコステ礼拝

5/16 日 12:35~13:05  
(女子短期大学宗教活動センター)

Special Issue : One step for something ; Graduate

# 特集 別れと出会いの一步 — 卒業

思い出がいっぱいの学院生活も、あとわずか。次のステージに向けて新しい一步を踏み出す思いを、各部の方にききました。

## 神様に愛され 守られて

藤原 裕子  
幼稚園保護者会長

幼稚園に通い始める頃は、毎朝満員電車で親子でもまれ、やっとの思いで幼稚園へ。帰りは表参道の駅までも歩けなくなり、抱っこで帰ったり、途中で寝てしまうこともあり。そんな娘たちも長女は初等部4年生、次女はいよいよ卒園を迎えます。

幼稚園で過ごした3年間は親にとっても、子どもにとっても特別な時間であり、また、幸せな時間でした。幼稚園にはとても温かな空気と豊かな時間が流れています。都心とは思えない園庭の豊かな緑は初夏には枇杷、秋には神や银杏など様々な実があり、春には池にたくさんのおたまじやくしが生まれ、大きなヒキガエルもやってきます。絵本や玩具には代々大切にに使われてきたものも多く、それを手にした時にホッとするような温もりを感じます。日々の礼拝やお祈りを通して、いつも神様に愛され守られていることを感謝し、子どもたちの声や心につも耳を傾け、愛で包み導いて下さった先生方と共に、この温かな幼稚園で3年間を過ごしました。子どもたちは幼稚園のどこかに自分の大好きな場所があり、思い思いに伸び伸びと遊んでいます。泥だんご作りに適した土はどこにあるのか、どの砂をかけるのとツルツルピカピカになるのか、姉妹でそんな話をすることもありました。

私たちは、この幼稚園で神様に会いました。5年前に東日本大震災が起き、当時1歳になったばかりの次女のミルクをおむつ、水のこなどこれからどうなってしまうのか、このまま東京にいて安全なのかと、毎日を不安な気持ちで過ごしていました。今、考えと恥ずかしいのですが、自分たちのことばかりを考え、余裕もなく、笑顔も消えていました。そんな時、当時年中だった長女が「ママ、だいじょうぶだよ、かみさまがまわってくださるから...」、と言ってくれました。その一言でとても気持ちが楽になりました。小さいながらも神様がいつも一緒に居て下さること、守って下さることを感じて育っていることにうれしくなりました。

子どもたちはこれから成長し、様々な道を歩んでいくことでしょう。どんな困難な場面になついても神様と出会い、お友達や先生方とたくさん遊び、共に育った幼稚園が変わりなくここにあって、いつでも帰れる場所があることは何と幸せなことでしょう。

手をつなぎ通った親子にとってかけがえのない3年間に感謝しています。

## み言葉と共に

岩田 有紗  
初等部6年

私の幼稚園は、カトリックでした。クリスマスチャンの母が、小さい時からキリスト教に触れさせたいと思ったからです。通っていた教会はプロテスタントです。主の祈りや旧約聖書の内容が少し違いましたが、お祈りするみんなの心は同じだったと思います。

私は自分からキリスト教の道に入ったわけではないので、信じる意味について考えたことがありませんでした。祖母は仏教徒で、キリスト教が嫌いです。だから私は、仏教とキリスト教を別々に考えていました。けれども、4年生の時に曾祖父と曾祖母が続けて亡くなり、親類同士でもめていた時、キリスト教も仏教も同じなのではないかと思うようになりました。それは、祖母が、問題が解決するまで、毎朝仏壇で折っていたからです。対象は違っても、信じる気持ちは同じだと思いました。

信じる気持ちとは、人種や感情などを全て超えた存在を信じることで、祈れば叶えられると信じているから、祈ることができるのだと思います。悩んでいる時に祈って、神様がくださった答えが自分の答えと違ったとしても、それが神様の答えだと思えることが、信じるということだと思います。信じていた人と離れても、神様と一緒にいてくださると信じると、一人ではないと強くなれます。それが信じる意味なのではないかと思っています。

私は自分の感情を言葉にするのが苦手です。1年生のパートナーさんにクリスマスカードを書く時、思いを上手に言葉にできなくて、それを代弁するような気持ちで聖句を探しました。見つけたのは、「ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。倒れば、ひとりの方が友を助け起す。倒れても起こしてくれる友のいない人は不幸だ。(コヘレ1:9-10)」です。パートナーさんに届いたカードを読んで、気持ちが伝わったと思いました。

礼拝で、聖書は人生の手引き書だというお話を聞いたことがあります。私は、それを初等部の6年間で実感することができました。これからも、聖書を手引き書にして神様のみ言葉と共に歩んでいきたいです。

## イースターから思うこと

上野 えれん  
中等部3年

イースターはイエス様が復活されたことをお祝いする祭日です。教会では、イースター礼拝が行われ、きれいに色付けされた卵と、うさぎやひよこが描かれたカードがいただけます。

ある時、私はなぜイースターに卵やうさぎが関係あるのか牧師さんに聞いてみたところ、ひよこが殻を破って卵から生まれるのは、イエス様の復活を表している。また、うさぎは、たくさんの子を産むことから生命の喜びを見ることができると教えていただきました。

2000年前、イエス様はこの世にお生まれになりました。しかし、イエス様が33年間の人生で布教をした日々は、たったの3年ほどだといわれています。3年という、私が中等部で過ごした日々と同じくらいだと思うと、あっという間です。

イエス様は貧しい大工の家に生まれ、布教するその3年間の始まりは、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けてからといえます。そして、弟子たちをむかえ、花や鳥などの無垢な者を楽し、「心の貧しい人々は幸いである。天の国はその人たちのものである」と説かれました。それは、常に欲を捨てて生きること、そして人々の光となること。しかし、欲を捨てることは難しいと思います。それでも私たちの失敗や罪を赦して下さる厳しくも優しいイエス様の言葉に深い愛を感じてなりません。

私たちは、イエス様におられることも会うこともできなくても、その生涯と教えの御言葉が福音書となり、これからも聖書を読む私たちの心の奥に響きわたるでしょう。

イースターからは、殻を破ってよみがえられたイエス様の私たちに深い愛を感じるのです。

## 神とともに成長

栗原 紘介  
高等部3年

多くを学んだ高等部の生活がもう終わろうとしている。3年前、希望いっぱいに進学した時には、高校生活において大きな躓きもたらされることなど考えもしなかった。

中等部では健康そのもので無遅刻無欠席だった僕は、高校に入ると疲れやすささまざまな不調を感じるようになり、1年生の時には2か月も学校を休み療養することになった。登校できるようになっても暫くは体調が戻らず、クラスの列に入って講堂にいることが難しかった時には、待機教室やドアのすぐ近くの席を先生が用意してくださって礼拝に参加していた。その時にふと思い出したのは、幼稚園の頃に見た聖書絵本だった。マルコによる福音書の一場面で、満員の家でイエスがひりひり派の人々や律法学者に教えを説いている時に、4人の男が中風で寝たりの人をイエスの前に連れて行こうと考え、屋根を壊して宙づりにして中に入れる。イエスを信じる者が支え合い、弱る者をイエスに委ねる場面だ。不思議なことに、その頃聞いた聖書の言葉はこれまで繰り返し聞いたものであっても、より深く心に刻まれたように思う。

僕たちは神様に愛されているだけでなく、互いに愛し合えない、という言葉通りに、神様から与えられた先生や友人がいる。困難にぶつかり、もうだめかな、と思った時にも必ず迷いの道と救いが用意されていた。病いを得て、普段の学校生活が当たり前ではなかったことに気付くことができたのは、きっと楽しい学校生活の中で心が衰えていた僕に、謙遜さや感謝を学ぶ機会が与えられていたからではないかと思う。マザー・テレサは「神は私達に成功を望んでいない。ただ挑戦することを望んでいる。」と言われた。何かを秀でて功績を得ることのみを目的としな生き方かしよう。これらの僕は与えられた恵みを受け生かされています。そんな今をこれからは先も忘れずにもできるだろう。安心して挑戦し続けていこう。何と心強く、嬉しいことだろうか。

## 多くの愛に感謝を込めて

杉浦 里帆  
女子短期大学 現代教養学科2年

この二年間、私はとても尊い時間を過ごしました。自分の中での変化が多くあり、大切にしたいと思う人達に数多く出会いました。今こうして、自分の学びたいことが学べた喜びを見守ってくれ人達がいた幸せを感じられるのは、青山学院での学びがあったからだと感じます。その中でも、キリスト教を学べたことが自分にとって最大の出会いでした。

私には、二年間の中で忘れられない瞬間があります。それは、ある友人が私のために祈ってくれた時でした。里帆の歩む道が、神様の愛で守られますように。たくさんの幸せが、降り注ぎますように。里帆のことを心から大切に思い、祈っている存在がここにすることを、忘れていていくれますように。私は、その言葉を聞きながら涙が止まらなかったことを、今でも覚えています。自分のために誰かが祈ってくれる、その行為がどれほど尊く幸せなことであるか、その時強く思い知りました。それ以来、私は毎日、神様に祈っていました。自分が今生きている幸せや、周りが健康でいてくれることへの感謝、出会う多くの人が幸せでいてくれるようにと。卒業後のも祈りの時間は、私の人生でずっと続いていくと思います。

学校での学びの中で、寮生活の中で、ハンドベルの活動の中で、私は常に神様の大きな愛の中で生きていたように思います。これは私の我が儘ですが、私は多くの人から愛される人で在りたいと常々思っています。そして、その愛に気付ける人で在りたい。そして、その愛に気付けたら、自分が在りたいのか、この意思決定が本当に正しいのかを吟味する後者が大切だと私は学びました。それ以来、自身が選択した結果がどんな形であらうと納得することが出来るようになりました。私は、今春社会に出ます。また、新たな出会いやチャレンジがたくさん待っていると思いますが、一つ一つを楽しみ正しいことは何か考え突き進んでいきたいと思っています。

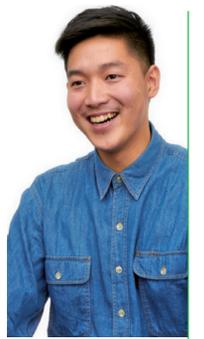


## Do the right things

坂本 錦一  
大学社会情報学部4年

私の大学生生活は、出会いとチャレンジの嵐でした。大学生になった当初は、新たな人間関係の形成に不安を覚える時もありましたが、今では学部、サークル、教員、学外など様々な切掛けを通して多くの仲間ができました。以前私は、あまり他人に私事を相談しない性格だったため一人で突走ってしまったり、不安を抱えたりする事がしばしばありました。しかし、大学で出会った友達を通して多くの価値観に触れ、自然と自分の考えや、感じていることを話している自分がいきました。お互いに、これだけは譲れないという大切な事について話しているときは、相手の忠に触れ、分り合えた喜びから笑みが止まりませんでした。学友と過ごした、こうした濃い時間から私はたくさんの事を学びました。

一方で大学生生活では、勉学、就職活動、日常生活など様々な場面において試練やチャレンジが待っていました。自力でかいてなんとか乗り越えたり、仲間とともに乗り越えたり、簡単なチャレンジもあれば、本当に屈してしまうチャレンジもありました。私は、壁にぶつかったとき社会情報学部の非常勤講師から学んだ「Do the things right. Do the right things」を心に留め行動するよう心がけています。「Do the things right」は事を正しく行うという意味で、「Do the right things」は正しい事を行うという意味です。この2つは、意味合いが似ているように思えますが実は全然違います。社会や周りの環境に合わせて単純に物事を行う前者ではなく、自分にとって何が正しいのか、この意思決定が本当に正しいのかを吟味する後者が大切だと私は学びました。それ以来、自身が選択した結果がどんな形であらうと納得することが出来るようになりました。私は、今春社会に出ます。また、新たな出会いやチャレンジがたくさん待っていると思いますが、一つ一つを楽しみ正しいことは何か考え突き進んでいきたいと思っています。



## 大学より

大学宗教委員研修会  
10:00-15:00(予定)  
3/2 水 17号館3階  
17307教室(青山)

講師 西原 康夫  
(立教学院副院長、立教大学文学部部長)  
テーマ 「キリスト教大学の歴史と展望」  
～立教大学から学ぶ～

卒業礼拝 3/26 土  
① 9:00~ ガウチャー記念礼拝堂  
② 12:15~ ガウチャー記念礼拝堂

キリスト教推薦入学生  
オリエンテーション  
4/1 全 ガウチャー記念礼拝堂  
9:00~

キリスト教概論 I  
オリエンテーション  
4/2 土 5 ガウチャー記念礼拝堂  
火 礼拝堂

新入生歓迎礼拝  
4/7 木 13 水  
(青山) ガウチャー記念礼拝堂  
(相模原) ウェスレー・チャペル

チャペル・ウィーク  
5/23-27 金  
(青山) ガウチャー記念礼拝堂  
(相模原) ウェスレー・チャペル

いずれの集いも自由に参加できます。  
おかけやす。楽しく聖書が学べます。  
(宗教主任担当)

キリスト教文化に親しむ会  
文学、自然科学、社会問題、音楽などをキリスト教信仰との関わりにおいて語り合い、考えます。  
(宗教委員、クリスチャン・教員と宗教主任担当)

(宗教センター事務局)

聖書に親しむ会  
おかけやす。楽しく聖書が学べます。  
(宗教主任担当)

キリスト教文化に親しむ会  
文学、自然科学、社会問題、音楽などをキリスト教信仰との関わりにおいて語り合い、考えます。  
(宗教委員、クリスチャン・教員と宗教主任担当)

(宗教センター事務局)

教職員新学年度礼拝  
17:00~  
4/4 月 ガウチャー記念礼拝堂

(宗教センター事務局)